はじめに

2013 年も天文台アーカイブプロジェクトの報告会を開催することができました。今回で第 4 回目となります。ひきつづき洛東鴨川畔の京都大学映像ステーションを会場に、各地から猛暑の京都にお集まりいただきましたこと関係者のみなさまに厚く御礼もうしあげます。今回は、そもそも研究資源としての山本天文台資料の調査研究とはいかなる特質をもったものかアーカイブ専門化からの考察、同心球面光学系による広視野大口径比カメラを開発された小林義生氏の話題、そろそろ創業百年を迎える京都の望遠鏡メーカーの老舗西村製作所の数十年にわたる望遠鏡製作記録についての調査研究など、多方面からご報告をいただきました。

山本天文台資料のほうは 2012 年 12 月までには箱からすべてをとりだして書架に並べ終わり、その後目録づくりにはいっております。9 月現在で全体の約三分の一まで目録ができています。この調子ですとあと 1 年あまりで全体の目録ができあがり、公開できるのではと目論んでおります。

現在資料室として利用しております益川記念館（北部教育研究棟）の２室は、プロジェクト室ですので一時的な保管場所兼資料閲覧・調査のための部屋という位置づけです。近い将来、恒久的な資料室が確保できるように関係者の間で努力を続けてまいりたい所存です。まずは花山天文台で計画が持ち上がりつつあります天文ミュージアムの中に歴史室を置く。もうひとつの可能性としては京大本部構内南西部の元理科大学物理学科のあった赤レンガ建物群をノーベル賞の館として整備・公開する計画を進め、そこに湯川博士をはじめとする京大歴代英知のアーカイブを総合的に保管・公開する施設を創設できればと、夢をふくらませております。これは一般市民ひいては外国人の方々に京大の学問のあゆみとその特質を知っていただく場となるでしょう。

参加者のみなさまの興味深いご報告と熱心な議論を、ここに集録冊子としてまとめ印刷することができました。お忙しい中ご執筆いただきました報告者のみなさまにあらためて感謝いたします。

最後になりましたが、山本天文台取り壊しに際し、建物調査をしていただいた京大建築学教授山岸常人氏と建築コンサルタント村田信夫氏（OFFICE 萬瑠夢 代表）がその結果を『失われた近代の知の遺産』として出版されました。第一・第二観測室、研究棟の正確な計測に基づく詳細な図面と写真、ＣＧによる復元動画ＤＶＤが附録についています。ＣＧには筆者制作のカルバー46ｃｍ反射望遠鏡のＣＧを組み込んでいただいたコラボレーションです。貴重な建築遺産としての山本天文台に関心のある方にはぜひ座右においてほしい一冊です。

（2014 年新春　冨田記）